

項	目次
1	用語集 及びリスクレベル
2	要約: 政治と紛争
4	人道的状況

## 用語集

ERW	爆発性戦争残存物
GoI	イラク政府
IDP	国内避難民
IED	即席爆発装置
IOM	国際移住機関
ISF	イラク治安部隊
IS	イスラム国
KRG	クルディスタン地域政府

この文書はジャパン・プラットフォーム内およびその関係者のみの利用に限ります。この文書は、JPF セキュリティアドバイザーの同意なく、再配布することを禁じます。

本レポートの情報源として、以下の団体が提供するものを参照しています：Corp Humanitarian Access Team (MC HAT), INSO, and websites including, but not exclusive, Institute for the Study of War, Chatham House, Human Rights Watch, Al Jazeera, SouthFront, Rudaw, Al-Monitor, iMMAP, and Reliefweb (お断り: 情報源の団体名は原文ママ)

以下文書内で“コメント…”とイタリック体で記載され、後述の文章もイタリック体で記載されている場合、筆者の意見を述べており、事実ではないことがあります。

免責事項: この文書の目的は、情報と分析をし、アドバイスを提供することです。ジャパン・プラットフォームは、この文書に基づき、読者がいかなる行動や措置をとった場合でも、責任を負いかねますことご了承ください。

ロケーション	リスクレベル	コメント	将来予想
Erbil, Duhok, Sulaymaniyah, Zokho and direct routes between within KRG borders (リスクレベル高に区別された地域を除く)	中	この地域で活動する国際NGOが面する脅威のリスクレベルは低いとされるが、KPGとイラク政府間の政治紛争による、国際NGOスタッフ(特に国際スタッフ)に対する脆弱性と、ビザに関する不確実性が、リスクレベルを中程度へと押し上げる。	*KRGとGoI間の政治的紛争の解決は、イラク選挙後まで先伸ばしされている。 野党が勝利すれば、ビザ問題は更に複雑になる可能性がある。 *選挙前暴動は続く見通しである。*トルコ軍による、PKKを標的とした国境侵略と空爆は続く見込み。*リスクレベルの変動はないと考えられる。
Kirkuk Governorate, Hawijah Governorate, Mosel, Telafar, Sinjar Districts, トルコとイラクの国境 10KM 以内の区域	高	この地域のリスクレベルは高いとされているが、国際NGOはこの地域で活動しており、かつ国際スタッフがこのエリアを訪れている。 強いセキュリティ作業基準とコンティンジェンシープランがあれば、このエリアでの活動は可能である。	リストに書かれたエリアは、治安の悪さの改善が見られないため、中期的に改善されない見込み。国際NGOの活動エリアが拡大するに従い、国際NGOスタッフに対するハラスメントは増える見込み。選挙前暴動は引き続き発生。 依然として、リスクレベルは高いと予想される。

## 1. 政治と戦争: 要約 (地図は 2018 年 5 月 6 日時点, ソース <http://syriancivilwarmap.com>)

**選挙前暴動:** イラク議会選挙は2018年5月12日に開催される予定。この選挙にて、イラク大統領および首相の投票権を持つ国民議会議員を329名選出する。

その内、Erbil, Dohuk & SulaymaniyahのKRG行政自治区が44議席、Kirkukが12議席占める。Erbil & DohukのKRG行政自治区は、INSOに記録されてある国内事件の内2%程度しか経験していないにもかかわらず、Kirkukは選挙前暴動をより高い割合で経験している。Erbilにおける暴動事件は、候補者に対する集落での物理的攻撃、党首を護送する車隊を走行中の車から襲撃する事件等が含まれる。もっとも深刻な事件は、KRG選挙委員会管理長殺害事件である。

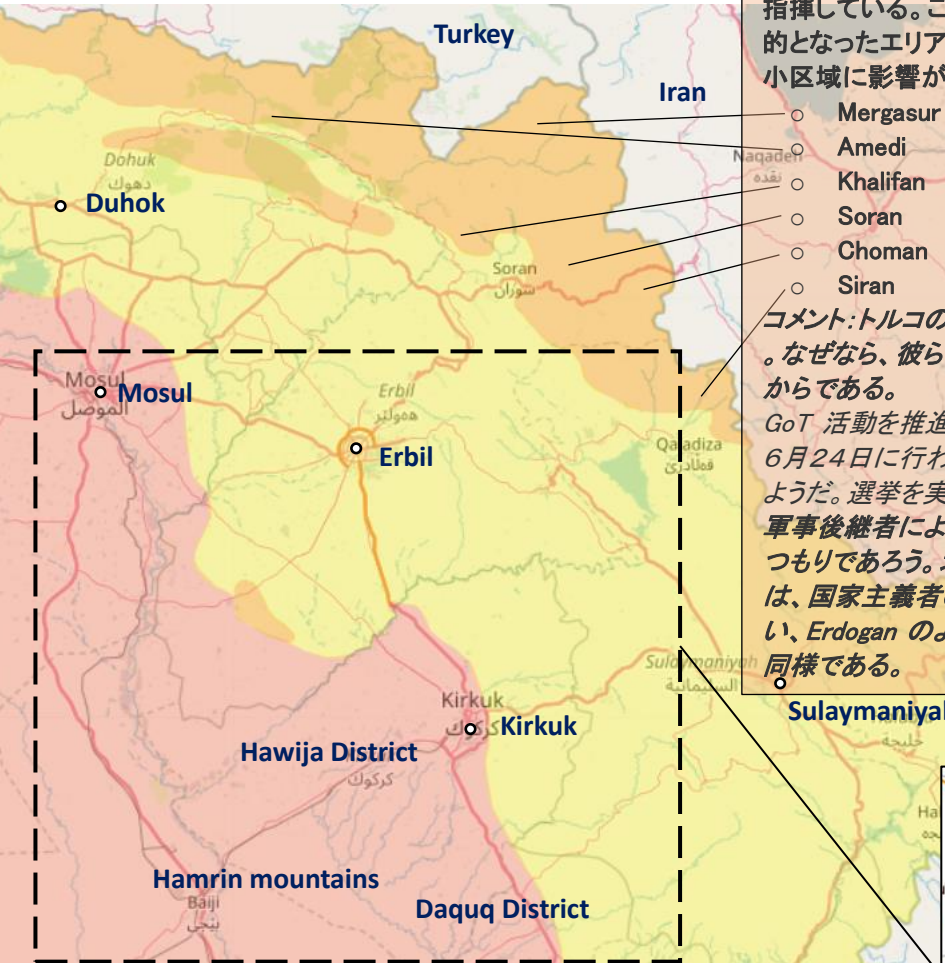
Kirkukでは、2人の政治家を護衛する車隊の側で複数のIEDが爆発し、1名が死亡、12名が負傷。政治事務所が手榴弾で攻撃され、政治集会で対立する派閥間の衝突が発生した。

**コメント:** 選挙前暴動は、Kurdish areasでは今に始まったことではない。1990年代中頃、多くの政党間の衝突により内戦状態となっていた。イラクからの分離独立を問う去年の国民投票に続く直近のイベントが、長年の確執を助長させた。IEDや銃撃などの更なる選挙前暴動は続く見込みである。この状況を悪化させるかのように、イスラム国が投票を攻撃することによって、選挙活動を中断させることを表明した。



**EBRIL 空港とビザ:** 現在、KRG ビザは、EBRIL 空港に国際線にて到着する乗客には発行している。しかし、Bagdad にある中央政府は、KRG ビザの発行については彼らの管理下におくことを目論んでいる。このように Bagdad の管理下へなるのか、全く時期の目処がつかない。また KRG 地域にいる、KRG が発行したビザを持っている者に対してどのような影響が起こるのか予想がつかない。代替案は、Bagdad にある中央当局よりイラクビザを発行してもらうことである。しかしながら、これは数ヶ月を要する官僚的なプロセスとなる。**コメント:** 事前の指示や警告無しに、Bagdad が KRG 地域向けに発行したビザへの切り替えが行われることは考えにくい。Bagdad 政府と KRG の関係は改善しているが、関係は良好とは言えない。5 月 12 日に行われる選挙により、Bagdad 政府に体制変更が起き、関係がさらに悪化する可能性さえ考えられる。仮に野党が勝利した場合、イランがイラク情勢に更なる影響力を持つと見られ、イラン政府は KRG を管理下に置く、クルディスタン民主党と良い関係も持っていない。

**治安部隊による NGO ハラスメント:**  
 NGO は、脅迫、ハラスメント、Ninawa 行政自治区にいる政府の武装勢力による監禁等といった事件の増加を報告している。女性の NGO スタッフは、チェックポイントでハラスメントを受けたり、NGO スタッフが IS のメンバーと思わしき人物に拘束されたり、暴行を受けたり、武装勢力が武器を持って、受益者を逮捕しに侵入したりといった事件が発生している。コメント:これらの事件は、数ある武装勢力が、人道主義の原則と、人道的空間に関する理解や尊敬の念が欠けていることがわかる。イラク軍と *Popular Mobilization Units (PMUs)* (通常は、シーア派民兵がイラク軍隊から自治を受けて運営しているもの)らがこれらの事件の責任を取るべきである。この状況の改善は見込まれず、かつ NGO の活動拡大に従い、悪化する可能性がある。



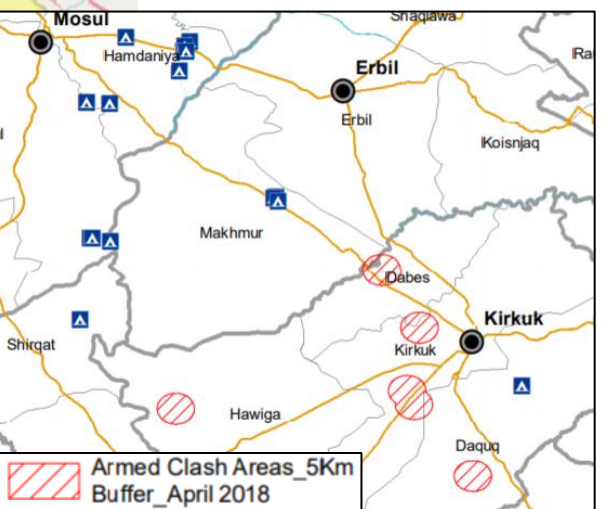
**トルコとPKK戦争:** 4月中、GoT軍とPKKは、イラクとトルコ国境沿いの山岳地帯で武装衝突が発生していた。双方に死傷者がでていたことが報告されている。GoTはさらに、PKKの攻撃地への追撃砲と空爆を指揮している。この攻撃では、死傷者は報告されていないものの、標的となったエリア付近の市民は一時的に避難させた。イラクの以下の小区域に影響があった:

- Mergasur
- Amedi
- Khalifan
- Soran
- Choman
- Siran

コメント:トルコのイラクにおける積極的な攻撃は今後も続くと思われる。なぜなら、彼らはPKKの指揮能力と自由移動を制圧する目的があるからである。  
 GoT 活動を推進させる真の目的には、直近に発表された、2018年6月24日に行われる、予定より18ヶ月早いトルコ「突然の」総選挙のようだ。選挙を実施するにあたり、President Erdogan は Afrin の直近の軍事後継者によって醸成された現在の国家主義者の感情を利用するつもりであろう。北イラクにおける、GoT 軍隊 PKK を追跡するの活動は、国家主義者の感情を維持するために役立つ。South Syria とは違い、Erdogan のような GoR の軍事指揮の同意を必要しないエリアでも同様である。

- Government of Iraq (GoI)
- Kurdish Regional Government (KRG)
- PPK active areas
- Yezidi PKK groups active areas

**KIRKUK行政自治区におけるISの活動:**  
 ISは、Kirkuk Cityの東と南地区、Hamarin 山岳地帯、Hawija Districtの砂漠地帯、Daquq Districtで活動をしている。彼らによる攻撃は、民間人の車に対し、路肩に設置した2つのIED攻撃、イラク治安部隊とシーア派民兵に関連した組織への銃撃、及びIED攻撃を実施している。コメント:このような攻撃は増加すると思われる、何故なら、ISが、2018年5月の選挙前と選挙期間における武装勢力へのキャンペーン激化の脅威を実行させるためである。



## 2. 人道的状況

### 世界保健機関状況レポート#2: 2018年3月1日～31日 の要約

<https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/WHO%20Situation%20Report%20for%20Iraq%20to%2031%20Mar%202018.pdf>

#### 世界保健機関公衆衛生の懸念

・医療従事者の不足、第二、第三の保健機関の損傷により、Ninawa & Salah Aldin エリアへ人々が戻り、医療サービスへのアクセスが制限されている。

・安全な水の確保は、引き続き、Mosul市西側に住む人々にとって主要な懸念点となっている。

WHOの医療ニーズ、プライオリティとギャップ:

- ・影響を受けた人々、帰還民、新たに取戻された領域のホストコミュニティに対するプライマリヘルスケアサービスの提供
- ・新たに取戻された Ninawa & Salah-al-din 行政自治区の救急医療の制限



### 要約: '2018年 UNICEF 子供のための 人道的支援-イラク'

<https://reliefweb.int/report/iraq/humanitarian-action-children-2018-iraq>

イラクでは、おおよそ、140万人の子供がまだ難民である。2018年は、武器を用いた暴力の減少と、帰還民の増加が見込まれているが、なお新しい難民は増えそうだ。従って、帰還民のためのキャンプサービスの維持と彼らへの重要なサービスを守る必要がある。子供たちは以前として非常に脆弱で、保護の対象であることは明らかだ。学校へ通う年齢の国内避難民の子供たちの約半分、大凡335,000の子供たちが、学校へ通うことができていない。以前イスラム国が支配していた地域に居住する子供たちは、心理的ケア、予防接種、学校への再入学の支援、そして安全に遊ぶ場所を必要としている。

UNICEF は、2018年、イラクの子供たちの人道的支援のニーズを満たすため、US \$101,151,160 必要であると要求している。

### 要約:「イラクの状況 UNHCR フラッシュ・アップデート2018年4月26日」

(<https://reliefweb.int/report/iraq/iraq-situation-unhcr-flash-update-26-april-2018>)

#### 要点

- 214万人のIDPが2014年1月から引き続き難民のままである
- 278,047名のイラク難民がその地域に残り、その内、イラク人12,105名が、シリア Al-Hassakeh 行政自治区にある難民キャンプへ
- 646,056 のIDPsがNinewaへ
- Hawiga (Kirkuk) と Shirqat (Salah al-Din) における軍事作戦のため現在59628のIDPたちが避難している

人口移動—214万人のIDPのうち、34%がKRGエリアにおいて難民になっている。KRG地域にある3つの行政区域のうち、2つの行政地域において、帰還民よりもIDPの人数が多い。(Dohuk & Erbil; そして3つ目にBaghdad) 故郷へ戻る、IDPの人々は、危機的な保護問題に直面している。特定の立ち退きエリアでは、家族に対して、移動の自由が制限され、ハラスメントや脅迫を経験している。このエリアには、キャンプ地も含まれる。

人道的支援の減少により、自助の限られた機会と、IDPキャンプにおける不平等な力関係が、人権侵害のリスクを増大させる。UNHCR は児童売春と虐待の疑いの増加について言及した。

返還された Salah al-Din, Ninewa, Anbar & Diyala 行政区域での主な人道保護の観点で、期間した家族が 任意で成り立つ原則への違反、安全そして復帰運動への尊厳、怪我や命を落とす事故、爆発性戦争残存物 (ERW)・即席爆発装置 (IED) による後遺症、軍隊やセキュリティアクターによる人権侵害、コミュニティ間の緊張もしくは社会的結束といった懸念や問題に直面している。